

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

肝胆膵領域疾患を有する患者の診療、手術に携わることにより、外科臨床の基礎的知識と技術を習得するとともに、臨床的判断能力、問題解決能力を修得する。さらに、医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、チーム医療、地域医療を行う能力を身に付け、医療人として必要な全人的人格形成に努める

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

### 1. 基礎的知識の理解

輸血と輸液、栄養と代謝、外科的感染症、創傷管理、血液凝固と線溶現象、周術期の管理、臨床免疫学、腫瘍学、放射線治療、化学療法、緩和療法と終末期ケア、外科病理学。

### 2. 肝胆膵疾患の検査、診断手順の修得

適切な病歴聴取、診察ならびに記録。血液生化学検査、画像診断(腹部超音波検査、腹部血管造影、上下部内視鏡、ERCP、PTCD、MRI、CT、PET)の組立とその解釈、診断確定と進展度を診断する。

### 3. 肝胆膵疾患の治療を理解する

確定診断、進展度診断に基づき、内科的、放射線科の治療を含めた包括的な治療法の選択を理解する。

### 4. 肝胆膵疾患の手術を理解し、手術の基本手技を習得する

病態に応じた手術の意義、適応、術式を理解し、手術に参加してその基本手技を学ぶ。また、3次元画像をもとに術前手術シミュレーションや腹腔鏡操作練習機を使って鏡視下手術デバイスの操作練習も行う。

### 5. 周術期管理を理解し、実践する

実臓器手術の周術期における十分な知識と管理技術を習得する。

### 6. チーム医療の実践

コミュニケーションの方法と技能を修得し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができ、患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮し良好な信頼関係を構築することができる。医療チームの構成や各構成員(医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担とそれぞれの専門性を理解したうえで、チームの一員として診療に参加する。

### 7. 医療倫理の修得

医師に相応しい倫理的態度を身に付け、患者情報の守秘義務と、患者、家族への情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。

## III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスなど

## IV. 経験できる疾患・手術など

### 経験できる症例:

原発性ならびに転移性肝癌、肝嚢胞性疾患、肝ならびに腹腔内膿瘍、胆嚢癌、胆嚢・胆管結石、胆嚢腺筋症、胆管癌、胆道閉鎖症、胆道拡張症、膵癌、膵嚢胞性腫瘍、膵石症、急性ならびに慢性膵炎、脾腫、特発性血小板減少症ほか

### 経験できる手術:

肝切除、肝移植、膵頭十二指腸切除、膵尾部切除、胆嚢摘出、胆管切除、胆管空腸吻合術、膵空腸吻合術、脾摘出術、肝動脈再建術、門脈再建術、腹腔鏡手術ほか

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。

指導医・看護師などによる形式的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 奥田 康司
2. 指導責任者 奥田 康司
3. 指導医 中山 剛一
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

月	8:30	手術
	9:00	病棟回診
	17:00	消化器内科合同肝癌カンファレンス
火	7:30	前日手術報告、ICU/HCU回診
	9:00	教授回診
	15:00	術前カンファレンス
水	7:30	前日手術報告、ICU/HCU回診
	9:00	病棟回診
木	7:30	前日手術報告、ICU/HCU回診
	8:30	手術
	9:00	病棟回診
	18:00	消化器内科合同胆膵疾患カンファレンス
金	7:30	前日手術報告、ICU/HCU回診
	8:30	手術
	9:00	病棟回診
土	9:00	病棟回診

